動物園ウォッチ

ボールニシキヘビの魅力にはまりました!

キュッと丸まった姿が印象的なボールニシキヘビ。「ボール」なんて、何だか気になる名前の彼らの生態は、やはり知れば知るほどおもしろいんです!!

（大阪芸術大学短期大学部メディア・芸術学科 今西舞）

※4月8日(水)より休園中

まるでボール

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一時休園(3月3日～23日)※となっていた天王寺動物園ですが、元気に取材に行ってきました。会ってきたのは、爬虫類生態館「アイファー」に住むボールニシキヘビです!

ボールニシキヘビはアフリカ中部に生息するニシキヘビ科ニシキヘビ属に分類されるヘビ。他のヘビに比べて怖がりで警戒心が強く、丸まって頭部を内側に隠し、防御することで身を守る行動が特徴です。ボールのように丸くなることからその名前がついたようで、丸まった姿はずっしりとした体重に見合わないほどコンパクト。片手に収まってしまうほどです。でも実際は、体長1.2メートルにもおよびます。

▲体長1.2メートルとは思えないほどコンパクト! 写真を撮らせていただいてる間もおとなしくしてくれていました!

▼爪のようなものが見えるでしょうか? こちらが足があった痕跡です

▲赤い矢印で指した2つの穴がピットと呼ばれる器官。獲物探しにとても役立ちます

舌ペロペロの謎

ヘビ全体の特徴でもある舌をペロペロと出す仕草は、何の意味があるかご存じですか? 獲物を捕らえるために匂いの粒子を舌に付着させ、場所を特定するのが目的なんです。さらにもうひとつ、ボールニシキヘビには狩りに欠かせないある特徴が。それは口元にあるピットという器官。コーンスネークやアオダイショウなどのヘビにはないニシキヘビ科の特徴のひとつで、何と温度を感知できるそうです。

夜行性のヘビは、見通しの良くない夜でも有利に獲物を捕らえるために、この器官を活用するのです。ところで、動物園では当然、狩りをする必要はないわけですが、飼育員さんがボールニシキヘビの口元にピンセットでエサのマウスを近づけると、獲物と間違えて、温かい飼育員さんの手をパクッということが、ごくまれにあるのだとか…。うれしそうに、そんなエピソードを話してくださる飼育員さんに、ボールニシキヘビへの愛を感じました!

カラダに刻まれたエイリアン!?

ヘビといえば蛇革の模様を思い浮かべる方が多いのではないでしょうか。どのヘビも同じような柄という先入観があるかもしれませんが、とんでもない。ボールニシキヘビの模様は、まるで横に並んだエイリアンがこちらを睨んでいるかのようなんです。ネットにもそんな表現をしている人がたくさんいらっしゃいますが、本当にそう! 天王寺動物園に行った際には他のヘビとの模様の違いを比べながら見て回るのもおすすめです。思った以上に大きな違いが見つかるのではないでしょうか?

動物園にいる動物としてなじみ深いヘビですが、少し苦手なイメージを持つ方も多いみたいです。その理由の一つに足がなく、長い身体というのがあるのでは? 何だか気の毒なヘビですが、トカゲなどの爬虫類から進化し、土の中の獲物を潜って獲るために足を失くしていったといわれているのです。

その証拠にもともと足があった痕跡を持つヘビがいるんです。その中の一種がこのボールニシキヘビ。総排泄口の両側にあるツノのような突起物が足の名残りといわれています。

足を持つヘビも見てみたいですが、もし今でも足があったとすれば、あのクニャクニャとした動きは見ることができなかったでしょう。

▲まさにエイリアン! 一つ目も二つ目もいますよ!

編集後記

今回はじめての取材でしたが、ボールニシキヘビだけでなく、他の爬虫類の話も交えて話してくださった飼育員さんのおかげで、リラックスして取り組むことができました。実は今までヘビを触ったことがありませんでしたが、取材の一環として持たせてもらうと想像以上におとなしく賢いヘビに、イメージが180度変わりました。飼育員さんをはじめ動物園の皆様、本当にありがとうございました!

今西舞

芸短ってどんなところ? まずは授業を体験してみよう!

オープンキャンパスde 高校生限定 体験入学

2020 7/19(日)・8/30(日)・9/27(日)・11/8(日)・2/7(日)

※日程は変更になることもあります。

望月けいイラスト入りクロッキー帳プレゼント! ※イメージです。

Webから事前申込要▼ 大阪芸短

大阪芸術大学短期大学部 伊丹キャンパス／メディア・芸術学科、デザイン美術学科 大阪キャンパス／保育学科